雑学集抜書　上

特別
ワ 3
6915
29

雜学集抜書
上

雑学集抜書　上

[illegible]

鷹百首抄 上

新学集様書　上

一　鮎のはらゝ鯵といふハ鮎を相わ
して網縄にこそ柳葉といふ
たのもしく四つまるへしきよく縄り
手の鮎を盛りに出す也
柳葉の鯵ハ先人の左又ハ向
如くなるつの也

一　山吹鯵といふハ初夏の鯵之

新学集様書　上

一　鮎のいりハ鱠といふハ鮎を切て
して網にまぶて柳葉をいれ
たのちに四まなえへにちよよ絞り
あら紙を塩にまぶし
柳葉の葉ふ先人の左又ハ向
如く料理の如く焼し

一　山吹鱠といふハ初春の鱠之
鮒を作る山吹の花の様な皮の上ニ
塩を出し切付也

一　こてり鱠といふハ割大根の入
たるをいふ又世すゝきを以世吹
鱠ともいふ

一　菊の鱠ハ菊の葉を塩とともによ
おろし大根を置出也

一　青鱠ハ青菜をすりて和るを
いふ春三月の間也

一　生姜鱠といふ菊鱠のごとく塩テ
よくおろし生姜を置て出す
なり

一　卯の花鱠といふハ如く鱠の
よく湯引あらひ葉をおろし
又おろし大根を置ても卯の
花といふ

一　越川鱠とはかちかちといふ鮎を
背越にして膾にを出し
よく塩し

一　羽節和といふハ雉の羽節を
細かにたゝき酢をくわして
其の皮をすりひきとみ
て出す也

一　鮒の色どり鱠といふハ膾を
[illegible]

煮染。一 …

一 上〻鯉之羽盛和とハ雉(キジ)の羽色を細(コマカ)なるたゝき酢を入して中へ入交せてよくよしひきとみて出す也

一 鮒(フナ)の色付ハ鱠ハ横段さ鯉梅背越(ヒゴシ)をかきよせよく身を鯉子をちらして鰭(ヒレ)をさしはさむ

一 鮒のかまり鱠とハ皮(カハ)を引テいさゝか鯉まして蓼酢をかけるなり

一 いけ鯉とハ活(コウゴリ)鰭(ガレ)なとの身をしまし其儘細(ホソ)作してより酒にてしめ出す之添青板にもる也

一 雉(キジ)鯉とハ云ハ小鯉(カワウ)のさしみ鯉鯉の名や

一 かんぎ鯉とハ鱶(フカ)のふかめ(カメ)の刺(サシ)身なり このふし頭うけ出す也

一 傘(カサ)さしとハ鯛の身を鱗(ウロコ)をとる物なり物の毒よりめをとめ湯引きハ松かさ作りなるもの煮(ニル)なとぞ煮るなり

一 うけ煎(イリ)とは鯛の身を取て小梅なとよりしめ湯引き加味に煮(ニル)と云ふ其を其ハうけ煮方吸物とハ小ぶりハ煮(アラシ)の吸物と云

一 うち海の吸物とは生麩(ナマ)を酒(ヤハ)にて蒲(ガマ)の身をとを細て梅の上にて押(オシ)肴やし温飩(ウムドン)をとうしみをテツくるは吸物に遣ひ候由も煮(ニル)なし

一 帯うちとハ鶴をけなしたくの身をかりめをとめより汁ニ入ハ鍋(ヨキ)に(コロ)にて(ぞ)けるなり あるてふ鯉皿をさして

添青…

とゝみを干ふくらに切りてたに酒
味噌にて煮るなり
一 煎鳥といふハ鶴をけなり
其外の鳥も力めとのとり
其汁ハ能頃にさけるなり
あわびを亀甲へさきして
添青松にも出すへし
一 梅焼といふハ只して梅程に
丸め湯りたれ味噌にて
味を付て春のりを衣にして付
梅の枝にさし亀甲にて付
添青にも出すなり
一 椙焼とは梅焼のことくにして
くしを切り枇をもとり
又は丸めたる味噌にて味
を付かやうの枝にさして
亀甲を付添青にも出すなり
一 鴫焼といふハ茄子の
上を枝にて鴫のかしらに
を作りて重ね柚味噌にて
同工
一 鐶焼きといふハ蟹の足に
あし添へにも出すへく
一 甲焼とは大蟹の甲を
に焼くるをいふなり
一 かくさ紙料理に是ハ
山椒を擂て其汁にて洗ひ
を焼へし
一 すゝきの塩をするハ箱
を鍋にて焼きて又しんさを
入け膳の下へ入しほにて塩こやきて
一 鯛の鱗を除き青にて出
をするをいふ
一 鯛子の首を焼て青に

を御手にてぬきさしけふてさと
くみ服のたへ入しまいらせ指こ
らや

一 鷹の鵜(ウロウ)を口にくはへて首に出す
をとるやうといふ

一 雛子の首(ツヒ)に毛を着て首に
出これいおのこと出たるといふ

一 同首(ツヒ)に毛を着て首に出たるを
山かけを出といふ

一 黒鷂(?)ほ鷹の鳥を付けたる
毛も吸ほは父母のしらば

一 雛子擒たるには黒き毛を添
出たる法(ホウ)く黄数(ミヤウカ)には出ずし
背(ホ子)を驚也

一 鶉(ウツラ)の擒たるには両羽を切たる
け羽を上より檜(ヒノキ)葉を差込

一 眼(ミキ)の擒たるは羽根を燃す
先を羽かしひ出ていへ
かりそめの無葉をしきたる

一 王鳥といふは鶴雛子鴈(ガン)をいふ
なり卅位法(ホウ)にて余(ヨ)る鳥とも
物なり

一 五鳥といふは鶴鯉鴙(スキ)鴨(カモ)鳥(カ)
鷺(レイ)鳥といふ卅位法(ホウ)にて余(ヨ)鳥
も物なく

一 姫(ヒメ)鳥といふは荒(アラ)鷲(メ)を鷲
たるといふ

一 [illegible]んほ鳥とは十鶴千鷂(メラ)
をわくめこともうへは母ゝ
鷲事や

一 差鷲とは鳥々に深合して
鷲を云

一 うづ(ジ)ら切とは綱(ホツ)利(サリ)事之

一 ころ袖といふ千鶴乙切たり
なとふしくそろへく

一 (ワマ)(カヰ子)肌をとれ鷲の小口と

一 鷹車や

一 並鷹とは多くは深合也
鷹をいふ

一 うづら切とは細(ホソ)く刻(サリ)事之

一 ちゝ鴨とハ千鶏が乙切たり
なりとかくそくらへく

一 飢(ワマ)鷹(カサ子)とは鷹の小口を
いふ

一 鶴の羽とハ大なるほとを云良く
ほそくあしのさき纏る切を
いふ

一 節引といふハすこしのるすや

一 鯉の尾はといふ船(ミ)先キ小口切
ましくて鷹をる刺(サミ)船(ミ)之

一 雛子引とは生(ム子)にて船(ミ)といふるを
雛子ハ胸をさらしれさ紀多
ると川魚といふ記るま
おちるを船(ミ)といふ膾(ヨ)るも(チヤウ)芒
ま流(ジユン)しているなり

已上

右一書ハ雖為秘事依
懇心深志之以
不残令免之者也

白鶴トや 之成
山本樹山 盛富
草嵐掃艺 春貞
川合草筆部 忠義

一 鯉の事は とい(カハ)鯉(ミ)より小口切
ましてはらを割(サミ)鯉(ミ)之
一 鮒子ハたまを鯉(ミ)といふ事また
鮒子ハ胸(ムネ)をさしれさ之気
ゐると川魚をといふ(ヨ)るまま
打ちを鯉といふ(チヤウ)場ものも
又 池(ジユン)していふ事

已上

右一書ハ雖為秘書依
深執心纔之抄書
之者也

多田下野 之成

山本樹山 盛富

平岡掃部 安昌

川合半平部 忠義